

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

AUGUST 2016

vol.28



かすが

◆春日神社

所在地：西尾市上横須賀町

交通：名鉄西尾線「上横須賀」駅 北東 約 100m

昭和 20（1945）年の三河地震で、幡豆郡横須賀村（現在の西尾市南部）は震度 7 の激震に襲われ、碧海郡明治村（現在の安城市南部・碧南市東部・西尾市北部）の 325 名に次ぐ、275 名の死者を出しました。

西尾市上横須賀町の春日神社には、この三河地震で犠牲になった氏子を供養するための、三河大地震之碑が建てられています。前述のように横須賀村の被害はひどく、春日神社の氏子だけでも 130 人が犠牲になったことが碑文に記されており、また背面には福泉寺門前にてお湯が噴き出すと記され、液状化現象が発生していたと思われる記述も見られます。

石碑の前には「大地震の碑前に立つ追悼の詩」と題した文章が刻まれた解説のモニュメントがあります。以下解説を引用します。「ころは 昭和の二十年 ときは 一月十三日 突如 襲いし 大地震 夜半の夢は 破れたり 立つに能わず 這えもせず 倒れし家のその下に あわれ 帰らぬ人の数 百三拾余に 及ひたり 折しも 戦の最中とて 家を失い 物もなく



春日神社

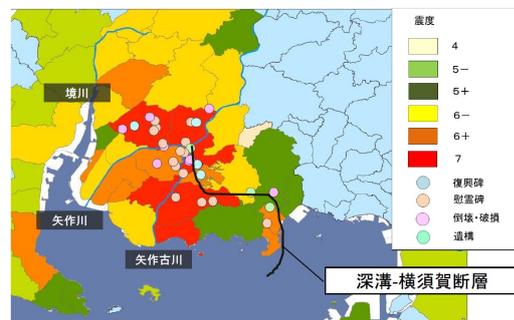


三河大地震之碑

読経 手向くる僧もなく 野辺の送りのあわれなり 星霜 移りし三十余 恵みの陰にわれら生く 今ぞ こたえん 神佛 ここに印さん 後の世に」

前段は大地震の際の様子描写で、夜半に発生したこの地震は、立つこともできず、這って逃れることすらできないほどの激震であり、倒れた家の下敷きになって 130 人が犠牲になったことが記されています。後段は当時の状況の描写となっており、結びでは、残された者の意志として、犠牲者を慰霊し大地震の教訓を後世に伝えることが記されています。

三河地震の慰霊碑や復興碑などの遺構は、確認されているものだけで 40 件に及びますが、そのほとんどが、被害の大きかった深溝—横須賀断層の近傍や安城市から西尾市にかけての岡崎平野一帯に存在し、横須賀村でも三河大地震之碑のほかに、復興碑と慰霊碑がそれぞれ 1 件ずつ確認されています。慰霊碑や復興碑は、7 回忌や 13 回忌、33 回忌など、節目を記念して建てられたものが多くありますが、この春日神社の三河大地震之碑は地震発生から 38 年後に制作されたもので、比較的新しい石碑となっています。



三河地震の遺構の分布

中部「歴史地震」研究年報 第 4 号より



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたとくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 春日神社の周辺には…

● 薬師堂（戦死震災者之碑）

所在地：西尾市高河原町

交通：名鉄西尾線「西尾」駅南東約 2.5km

戦死震災者之碑は、戦死者と昭和 20（1945）年三河地震による震災死亡者の両方を祀っています。裏面には震災関係の死者として 20 人の名前が刻まれています。



● 白山神社（震災碑）

所在地：西尾市徳次町宮廻

交通：名鉄西尾線「西尾口」駅東約 1.1km

境内に土地改良碑、英霊碑と並んで「震災碑」があります。碑文には昭和 20（1945）年三河地震により亡くなった人の霊を慰めること、また災害を後世に伝え、防災対策の一助となることを願うことが記されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 三河一色大提灯まつり

三河一色大提灯まつりは、西尾市の三河一色諏訪神社で毎年 8 月 26,27 日に行われるまつりで、高さ 10m を超える大提灯が西尾の夏の風物詩となっています。永禄年間（1558～1569）の頃、この地域で海魔が現れ、田畑を荒し、人畜に危害を加えていたのを鎮めるために、かがり火をたいたことが起源と言われ、やがてかがり火が大提灯へと変わっていきました。



西尾市観光協会 HP より

現在は 2 張の提灯の両側と間に柱を立てる三本柱の形式となっており、提灯の大きさは大きいものになると高さ 10m、直径約 5.6m にも及び、ろうそくも最大で長さ 1m 余り、100kg 近いものになります。

まつりに向けて、8 月 21 日に柱立てが、23 日には屋根の骨組みが行われ、26 日の午前 8 時から大提灯が揚げられ始め、10 時 30 分頃にはすべて（12 張）の大提灯が出そろいます。午後 7 時には火入れが始まり、午後 8 時頃にはすべての提灯にろうそくが灯され、まつりはピークを迎えます。26 日の午後 3 時と午後 8 時には、地元の小学生による神楽も奉納されます。

8月のあいちの花

平成 28 年 8 月のあいちの花はクルクマです。クルクマは、マレー半島を原産とする多年草で、観賞目的で栽培されるもののほか、食用・薬用に用いられる品種もあります。ショウガやウコンもこの仲間です。



白やピンクに鮮やかに色づく部分は苞で、花は苞の間に目立たず咲きます。

● ブレイクタイム ●

♪ 東幡豆町のトンボロ干潟

西尾市の東幡豆町には、トンボロ現象が見られる干潟があります。トンボロ現象とは、普段は海によって隔られている陸地と島が、干潮時に干上がって姿を現した地面で繋がる珍しい現象です。干潟の先端には無人の島（前島）があり、干潮になると干潟が浮かび上がって陸地側の浜と前島が陸で結ばれ、徒歩で渡れるようになります。三河湾有数の潮干狩り場でもあり、3 月から 8 月頃までは潮干狩り客で賑わいます。

なお、前島はかつて、隣の沖島と合わせて、うさぎ島、猿が島と呼ばれていた島で、前島ではうさぎが、沖島では猿が放し飼いにされ、観光船も就航していました。



東幡豆町のトンボロ干潟
あいち子どもの国 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 8 月）